



## 第4回九州女子ミッドアマチュア選手権競技 第4回九州女子シニア選手権競技

競技報告 (2016/ 9. 1)

写真と記事 : M. Kikutake

### 女子ミッドは1アンダー 71

### 木村紀子 (鷹羽ロイヤル) が初優勝



### 女子シニアは5オーバー 77

### 豊沢雅子 (北九州) が プレーオフを制して初栄冠



第4回九州女子ミッドアマチュア選手権競技・第4回九州女子シニア選手権競技は9月1日、福岡県糸島市の福岡雷山ゴルフ倶楽部(5901ヤード、パー72)で行われ、女子ミッド(M)は26歳の木村紀子(鷹羽ロイヤル)が1アンダーの71で回り、初優勝した。

女子シニアは5オーバー、77で並んだ2人によるプレーオフとなったが、50歳の豊沢雅子(北九州)が62歳の田中まゆみ(グリーンランドリゾート)を下し、初優勝した。

(写真は木村紀子Ⓒ、豊沢雅子Ⓒの両選手)

大会には25歳以上の女子Mアマの部に70人(欠場2人)、50歳以上の女子シニアには89人(欠場1人)が参加、いずれも18ホールストロークプレーで行われた。連日の猛暑も峠を越したか、この日は曇り、気温25度、西の風2.4m/s(正午現在)と絶好のコンディションでの戦いになった。

### 木村はただ1人のアンダーパーをマークしての勝利

女子Mは、前半2バーディーで34と好調に折り返した木村が、後半は終盤に連続ボギーを打つなどして1つスコアを落としたものの、ただ1人のアンダーパーをマークして勝った。2打差の73で若松和代(大隅、47歳)が2位に入り、さらに1打差、

74の3位タイに高田雅野（西戸崎シーサイド、46歳）と松尾麻子（佐賀クラシック、45歳）の2人。前年優勝で3連覇がかかっていた渡辺恵理（チェリー宇土、34歳）は、西嶋由加（セブンミリオン、32歳）とともに3オーバー、75で5位タイだった。

また、昨年は女子シニアで優勝した52歳の松尾賢子（美々津）と同2位の山口美帆（佐世保、52歳）が今大会はMアマへの挑戦だったが、山口は5オーバーの8位タイに入り、松尾は11オーバーの26位タイだった。

## 初出場で初タイトルの豊沢

女子シニアのプレーオフは1ホール目、ボギーの豊沢に対し田中はダブルボギーとして、決着がついた。豊沢は初出場初めてのプレーオフ経験で、自身の初タイトルだった。1打差の6オーバー3位は田口亜希子（玄海、51歳）、さらに1打差4位に荒田つゆ子（いぶすき、54歳）で、8オーバーの5位タイには、第2回大会優勝で、2002年日本女子シニアも制している福井和子（ブリヂストン、69歳）ら8人が並んだ。

参加最高齢、75歳の犬童アヤ子（くまもと城南）は11オーバーの83で回り22位タイだった。

## 日本女子ミッドは10人

### 志摩シーサイドでの日本女子シニアは13人が出場権

この試合の結果、「第21回日本女子ミッドアマチュア選手権」（11月17～18日、愛媛県サンセットヒルズCC）は8位タイまでの9人と、10位タイの5人のうちマッチングスコアカードで選ばれた1人の計10人（シードを含む）が出場権。地元の糸島市、志摩シーサイドCCで10月27～28日に行われる「第24回日本女子シニア選手権」は5位タイまでの12人と、13位タイの4人のうちマッチングスコアカードで選んだ1人の計13人が出場権を得た。日本女子シニアにはこのほか、松尾と山口の2人がシード権を持っており、山口はMアマとともにW出場権となった。



## 「この1年の自分の頑張りをほめてあげたい」

### 初めてのビッグタイトルに笑顔の木村紀子



「ドライバーが良くなって、アプローチとパターで頑張ったよな…」。4バーディー、3ボギーの71で回ったラウンドを振り返ってこう口にした木村紀子（きこ）だったが、奪ったバーディーはほとんどが1打前後を沈めてのもの。アプローチで得意クラブの9番アイアンやピッチングウエッジが使える100ヤードを残すように攻めたのが功を奏したようで、満面の笑顔を見せた。

ゴルフ歴は中学2年のころから。しかし、「ジュニア競技に出られるレベルではなかった」という。門司北高を卒業すると一時はプロを目指して小倉カンツリークラブの研修生になったものの、「自分にはプロは無理」とあっさりとおきらめた。

だが、ゴルフは好きだった。そこでキャディーを務めながら、「自分はアマチュアで行く」と決めた。とはいっても、ジュニアの強豪が顔をそろえる九州女子選手権は歯が立たない。

そんなとき、女子ミッドアマが参加資格の変更で昨年、従来の30歳以上から25歳になった。チャンス到来、と意気込んだが、初出場の結果は、82のスコアで13位タイ。日本ミッドアマ出場には3打足りなかった。

これで負けん気に火が付いた。「ジャパン（日本女子ミッドアマ選手権）に行きたい。去年の悔しい思いだけでこの1年間頑張ってきた」。そして、公式競技で自己ベストのアンダーパー71をマークして優勝を遂げた。昨年、福岡県民大会で優勝経験はあったが、九州レベルでのタイトルは初めて。

「ジャパンに行きたかったし、アンダーで回れた。うれしい」。表彰式のスピーチで木村は「一生懸命頑張ってきた自分をほめてあげたい」と言ったが、その顔は輝いていた。

**3連覇ならずの渡辺恵理** 「前半はいい感じだったが、後半は（13番から3連続ボギーなど1バーディー、4ボギー）ドライバー、アイアンともダメで…。日本ミッドは昨年6位タイ。少しは自信になった。今年はカッコいいスコアを出してきたい」

**こちらは「無欲の勝利」**

## 初物尽くしの豊沢雅子

初出場の大会で、初めてのプレーオフを経験し、初めての優勝の味。初物尽くしだった豊沢雅子だったが、「自分でもびっくりのスコアが出て驚いている」とは言うものの、そのラウンドを振り返ってもらくと、「みなさん上手な方ばかりだし、淡々と回った」と答えの方も淡々としていた。

出だしでドライバーを引っ掛けてダブルボギーのスタートで、そのあとも3ボギーを打ち41。しかし、後半は粘った。バーディーとボギーが1個ずつのパープレーで、前半の5オーバーの傷を広げなかった。

結局は同スコアで上がってきた田中まゆみとのプレーオフになったが、18番はパー5。ともに3打で届かず、4オンでパット勝負になったが、2パットでおさめて田中を下し、この日好調だったパットで勝利を手にした格好だ。

自宅は北九州市の若松。20代で始めたゴルフだが、「月イチゴルファー」。「練習もしないし、腕試しのつもり」での参加だった。それが、思いがけずに優勝を手にして、若干の戸惑いもあるようだった。というのも、「夫の実家が農家」といい、これからは農繁期。猫の手も借りたい時期になるだけに、日本女子シニアの試合とぶつからないか。「地元での日本選手権だから、何とかして出たいけど」と喜びの中にもさえない表情を見せた豊沢だった。



**プレーオフで敗れた田中まゆみ** 「8打のファーストパットを1打ちよい残して3パット。悔いが残る。日本選手権の志摩シーサイドはコースを知っているし、もうちょっと頑張ってきてたい」

**参加最高齢の75歳の犬童アヤ子** 「ショットは安定していたけど、3パットが3回と、15番での池ポチャがねえ…。(自宅は合志市で熊本地震で半壊)地震には負けておられん。(年齢の)下の人たちにいいとこ見せたかったが、かなわなかった」